

富士フイルム
ハイエンド超音波画像診断装置
「X-Porte(エクス-ポルテ)」新発売
～新開発の画像処理技術で、鮮明・高解像度な画
質を実現。全面タッチパネルによる簡単な操作で、
診断ワークフローが大幅に向上～
(2013/10/31)

富士フイルム(株)は、独自の画像処理技術で、鮮明・高解像度な画質を実現したハイエンド超音波画像診断装置「X-Porte(エクス-ポルテ)」を、(株)富士フイルムソノサイト・ジャパンより、平成25年11月1日に発売する。

今回発売する「X-Porte」は、新規開発した画像処理XDIイメージングテクノロジー※1を搭載することにより、ノイズ※2を軽減し、高解像度な画質を実現。診断部位が、より鮮明に観察できるようになった。また、操作部に全面タッチパネルを採用し、キーボードやボタン操作を一切不要にした。ナビゲーションに従って画面を指先で操作するだけで患者情報の入力、撮影モードの選択などの操作を簡単に行うことができる。メニュー画面のレイアウトを使いやすいようにカスタマイズすることもでき、診断の効率化が期待できる。ベッドサイドへ簡単に移動できるスリムなデザインに加え、表示用スクリーンを折り畳み式にし、

また操作部の高さを調整できるようにしたことで可動性が増し、狭い場所でもスムーズに移動することが可能。さらに、スキャン方法から3D解剖まで、「X-Porte」の操作・読影方法を実際のエコー画像や動画※3を用いて解説するコンテンツを種類豊富に搭載。医療現場の医師の使いやすさにこだわったPOC※4 市場向けのオール・イン・ワンKIOSK※5 デザインである。

「X-Porte」は、今年9月から欧州、豪州で販売を開始しており、今後もグローバルで広く展開していく。



全面タッチパネル

<主な特長>

●独自の画像処理技術により、鮮明で高解像度な画質を実現。

新規開発した画像処理XDIイメージングテクノロジーを搭載したことで、ノイズを軽減し、より鮮明で高解像度な画質を実現した。

●全面タッチパネルによる簡単な操作。

「X-Porte」は、画面をタッチするだけで、簡単に操作することができる。ユーザーインターフェースを簡単にカスタマイズすることもでき、必要なメニューレイアウトをタッチパネル上に表示させることで、シンプルで迅速な操作が可能。操作部には、キーボードやボタンを一切使っていないので、防水・防菌性に優れ、清掃もしやすくなっている。

●ラーニング機能搭載

スキャン方法から3D解剖まで、「X-Porte」の操作・読影方法を実際のエコー画像や動画を用いて解説するコンテンツを種類豊富に搭載。



X-Porte

<主な仕様>

- ・表示モード：Bモード, THIモード(P21xp, C60xp 対応), Plus Inversion Harmonic Imaging, MモードVelocity Color Dopplerモード, CPDモード, PWモード, PW Tissue Dopplerモード, CWモード,
- ・ECG(オプション)
- ・走査方式：リニア走査/コンベックス走査/セクタ走査
- ・観察モニタ：19 インチカラーLCD
- ・電源：本体 AC100V 50/60Hz 最大8.0A
- ・バッテリー電源：充電式リチウムイオン
- ・バッテリー動作時間：約1時間 充電時間：約1.5時間
- ・外形寸法/重量：本体
671(L)×538(W)×1626(H) mm 約61kg

- ※1: FUJIFILM SonoSite, Inc.が、独自の技術により新しく開発したビームフォーミングテクノロジー—XDI(Extreme Definition Imaging)。この信号分析アルゴリズムにより、ノイズを大幅に減らすことができ、鮮明で高解像度の画像を生成する。特許出願中。
- ※2: 超音波ビームには送信方向の中心軸上に出る音圧の高いメインローブと中心軸から外れた方向に出る音圧の低いサイドローブがある。サイドローブ上の反射体からの信号とメインローブからの反射信号が同時に受信されることによって出来るアーチファクト(偽信号)のこと。
- ※3: 超音波の基礎から麻酔科・急性期治療・処置向けの動画が搭載されている。
- ※4: Point Of Careの略。医師が診断機器を使いながら、その場で診断や治療方針の決定を行うこと。
- ※5: 駅や公園などにある「便利で小さな売店」を意味し、いつでも誰もが簡単に利用できるということを表す。